

授業科目(ナンバリング)	<b>専門演習ⅡA (CF301)</b>			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>テーマ：観光地の地域研究</p> <p>国内観光地の地域研究である。観光地の地域的特性・問題点・観光開発のあり方を、観察・聞き取り・資料収集などの調査方法を用いて明らかにする。これによって、卒業論文の作成技法を習得する。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身につけることができる。				研究発表	25%	
情報収集、分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。				野外巡検	30%	
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果の整理において、グループで意見を述べるることができる。				事前・事後学習	20%	
協働・課題解決力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。				事前・事後学習	10%	
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。				研究成果レポート	15%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は観光地域における野外調査である。</li> <li>・評価は、地域調査、研究発表、研究成果レポート、事前・事後学習を総合して行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>演習の方法は、以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.研究地域の選定（目的・意義・場所・日程・方法など）</li> <li>2.研究テーマ・内容の設定</li> <li>3.地域調査（現地の視察、聞き取り、文献・資料収集など5月下旬か6月初旬に日帰りで実施）</li> <li>4.調査結果の分析・整理</li> <li>5.研究成果レポートの作成</li> <li>6.研究発表会</li> </ol> <p>注）専門演習ⅡBと共通テーマのもとに調査・研究する。また、旅費は各自で実費を負担する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書・参考書・指定図書：研究地域が決定した後、巡検地に関連する文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習は、卒業論文を作成するために本格的な地域研究手法を習得するものであり、観光地の地域調査に関心のある学生の受講を希望する。地域研究の手法を習得するためには、文献・資料や観察・聞き取り調査で得たデータを用いて事象を分析・考察しなければならない。観光地域に関する学術書を精読することを希望する。</p> <p>※本演習を選択する学生は、次のコースを履修することが望ましい。 観光マネジメント</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を理解する。	予習：シラバスを読む 復習：研究対象地域考案
2	前期（春期）研究地域の選定 省察・個人目標の設定	観光調査の目的・場所・日程等について検討する。  2年次の学修成果を省察し、3年前期の個人目標設定の面談を実施する。	予習：研究地の文献調べ 復習：文献を読む
3	地域調査の事前学習①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：研究地の文献調べ 復習：文献を読む
4	地域調査の事前学習②	文献・資料を輪読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	地域調査の事前学習③	地形図を用いて土地利用図を作成し、現象を分析する。	予習：土地利用図作成 復習：土地利用の分析
6	地域調査の事前学習④	観光施設等の観察調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
7	地域調査の準備	観光調査の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	観光地調査	新緑の美しい5月下旬か6月初旬に1日調査する。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	レポート提出	研究成果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	レポートの添削指導	添削されたレポートについて、個別指導を受ける。	予習：レポート内容確認 復習：レポートの修正
14	レポートの修正	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期（春期）レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出する。夏休みの宿題を与えられる。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	井上 英也(実務家教員)		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な精神として、国際化、多様化、情報化が進む企業活動においても広く取り入れられている。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、観光産業のリーダーに必要な素養を修得することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。</p>							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。				課題レポート	30%	
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢	40%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力	グループでホテルに宿泊し、ゲストの観点からインスペクションを実施する。計画、実施、報告書作成、改善案の報告のプロセスの中で積極的に役割を果たし、グループに貢献することができる。				授業への積極姿勢 ホテル・インスペクションへの積極姿勢	5%	
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。          ② 「課題レポート」は提出時期(30%)内容の論理性・独自性(50%)文章構成力・形式要件(20%)で評価する。          ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。          ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する</p>							
授業の概要							
<p>ホテルを利用するゲストの視点からホテルを評価する手法を学び、インスペクター(評価者)の体験をする。また、地域観光におけるホテルの役割、インバウンドビジネスの仕組みなどをグループ・アクティビティにより修得する。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「新・観光立国論」デービット・アトキンソン							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。          ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。          ③「ホテル管理論」「ホテルビジネス英語」「Hotel Management」など関連の科目を履修し、理解を深める。          ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。          ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 個人目標を考えておく
3	ホテル・インスペクション①	ゲスト視点から、ホテルの施設(ロビー/客室/レストランなど)およびサービス(フロント/レストランなど)をチェックし、評価する手法を考察する。	(予習) ホテルを利用した時にチェックする項目をリストアップする
4	ホテル・インスペクション②	ホテルを評価するためのチェックシートを作成する。(日本人ゲスト、外国人ゲスト、それぞれのホテルに対する要望を想定する)	(復習) チェックシートを完成する
5	ホテル・インスペクション③	ホテル会社からゲストスピーカー(実務家)を招き、インスペクションについて話し合う。また②で作成したチェックシートの内容を確認する。	(復習) チェックシートを修正する
6	ホテル・インスペクション④	佐世保周辺のホテルに宿泊し、インスペクションを実施する。	(復習) レポートに取り上げる内容を準備する
7	ホテル・インスペクション⑤	インスペクションの結果をグループで討議し、ホテル会社に対するレポートを作成する。	(復習) レポートを完成する
8	ホテル・インスペクション⑥	ホテル会社に対し、インスペクションの結果から改善提案を行う。	(予習) プレゼンテーションの準備をする
9	日本版 DMO におけるホテルの役割①	今後の地方創成の中で、観光振興の柱として期待される DMO(Destination Management Organization)について学ぶ。	(予習) 日本版 DMO について、国土交通省のウェブサイトなどで調べる
10	日本版 DMO におけるホテルの役割②	佐世保・小値賀島観光圏について、ゲストスピーカー(実務家)を招き、DMO の現状と今後の取組みについて情報提供を受ける。	(予習) 佐世保・小値賀島観光圏についてウェブサイトなどで調べる
11	日本版 DMO におけるホテルの役割③	学生の視点で、観光圏におけるホテルの役割を考察し、レポートを作成する。	(復習) レポートを作成する
12	日本版 DMO におけるホテルの役割④	③のプレゼンテーションを行い、グループ討議により軌道修正した上で、レポートを完成する。	(復習) レポートを完成する
13	インバウンドビジネス事例研究①	長崎県内のインバウンドビジネスの現状を、ゲストスピーカー(実務家)から具体的な事例をヒアリングする。	(予習) インバウンドビジネスの現状を調べる
14	インバウンドビジネス事例研究②	①に関する実地調査を行った上で改善提案に基づきプレゼンテーションを行なう。	(予習) 改善提案を完成し、グループ発表の準備をする
15	専門演習ⅡA のまとめ	専門演習ⅡA 学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<b>テーマ：博物館・地域文化資源の博物館学的研究</b> 博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業論文のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加	30%	
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				事前・事後学習	40%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	20%	
協働・課題解決力	フィールドワークなどの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会に参加して発表ができる。				プレゼンテーション 勉強会での発表	5% 5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
情報収集・分析力が40%、卒業研究に対する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、プレゼンテーション、勉強会の発表各5%で評価する。 課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオで行う。							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館の日程・調査方法などを検討する。</li> <li>・現地調査を1日以上実施する。</li> <li>・研究発表会を行う。</li> <li>・研究成果レポートの作成と提出。</li> </ul> この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							

本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。

また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。

※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。

※現地調査の旅費は実費とする。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：博物館調査館の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	見学館の事前学習①	博物館調査の場所・日程等について検討する。 博物館調査の具体的内容と割振りをする。	予習：博物館予備調査 復習：今回の復習
4	見学館の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	見学館の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	博物館調査	博物館及び地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成	調査をもとにレポートを作成する。	予習：レポート内容確認 復習：レポート執筆
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省

14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	前期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
前半では、高齢者の健康づくりに関するテキストの輪読を通して、高齢者の健康づくりを科学的な視点からサポートする方法について理解することを目的とする。後半では、前半にテキストを通して学んだ知識や、その他の授業等で学んできた知識と、これまでの経験を通して得た知識や抱いていた疑問等を関連づけて考えることで、卒業論文のテーマを決定していく。また、テキストで扱う、生活機能の測定方法について、実践(実技)を通して修得することを目的とする。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・ 生活機能の測定方法を修得する。				・ 実技試験	30%	
情報収集、分析力	・ 高齢者の生活機能を規定する要因について理解することができる。 ・ テキストに出てくる図表の内容について理解することができる。				・ プレゼン用レジュメ ・ プレゼン後のディスカッション	20% 30%	
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分の意見を述べるができる。				・ プレゼンテーション ・ プレゼン後のディスカッション	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション(50%)については、前半のテキスト輪読では、テキストの担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションを行えているかを評価基準とする。また、後半の参考文献の紹介では、紹介する論文に記載されている内容を理解した上で、その内容を他のゼミ生に伝えられているかを評価基準とする。プレゼン用レジュメ(20%)については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする(授業内でフィードバック)。実技試験(30%)については、生活機能の測定方法を理解した上で測定ができているかを評価基準とする。							
授業の概要							
ゼミ前半は、高齢者の健康づくりに関するテキストを輪読していく(①担当箇所(担当者)の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション)。なお、②～④の行程については、担当者が事前(ゼミ時間外)に準備するものとする。ゼミ後半は、各自が興味を持った分野の文献を順番でゼミの中で紹介していく(①文献検索、②紹介文献決定、③精読、④要約、⑤レジュメ作成、⑥報告、⑦ディスカッション)。なお、②～⑤の行程については、担当者が事前に準備するものとする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：松田光生他 編『地域における高齢者の健康づくりハンドブック』NAP社 指定図書：福永哲夫・豊岡史 著『貯筋通帳』ワニマガジン社							



授業外における学修及び学生に期待すること

本ゼミで行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。そのためには、ゼミ時間外に、ゼミで行った内容について復習を通して理解すると共に、ゼミで行った内容の周辺領域の知識について予習する等の取り組みを行ってほしい。また、知識の修得や理解の以前に、“ヒト”としてではなく“人”として、そして大学生としての最低限のマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。メリハリ（学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ）を大切に！

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション (1)	自己紹介、ゼミの進め方について、輪読担当箇所の決定	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(1)の精読
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	輪読 (1)	生活機能を規定する要因(1)「歩行能力」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(2)の精読
4	輪読 (2)	生活機能を規定する要因(2)「下肢における筋量の維持と増進」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(3)の精読
5	輪読 (3)	生活機能を規定する要因(3)「筋の発揮する力およびパワー」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(4)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(4)の精読
6	輪読 (4)	生活機能を規定する要因(4)「全身持久力」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(5)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(5)の精読
7	輪読 (5)	生活機能を規定する要因(5)「身体活動量」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(6)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(6)の精読
8	輪読 (6)	生活機能を規定する要因(6)「身体組成・肥満」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(7)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(7)の精読
9	輪読 (7)	生活機能を規定する要因(7)「筋持久力」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(8)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(8)の精読
10	輪読 (8)	生活機能を規定する要因(8)「精神健康度」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(9)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(9)の精読
11	輪読 (9)	生活機能を規定する要因(9)「生活の質」	生活機能を規定する要因(1)～(9)の復習
12	オリエンテーション (2)	卒業論文のテーマについて、担当順の決定	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
13	プレゼンテーション (1)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (1)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
14	プレゼンテーション (2)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (2)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
15	プレゼンテーション (3)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (3)	卒業論文のテーマについて考える

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CA111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<b>三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする</b> 観光学の基本的な理解と、佐世保・西九州に関わる国際交流史の学修に基づいて、三川内焼の特徴を説明できるようになる。この説明は、2つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート	10%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート	○25%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習参加状況	◎35% 10%	
協働・課題解決力	①三川内フィールドワークの際、2年生と一緒に調査を行うことができる。②学術発表の際、2年生を支援できる。				フィールドワーク・学術発表参加	△10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）ようこそ JAPAN 外国語コンテストへの出場または運営の支援が望ましい（必須ではない）。（3）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習) 指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	省察	2年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 対象観光地の歴史とアクセスを調べる。
3	事前準備 1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	(予習) 自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調査結果の報告	(復習) 指示された事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
5	事前準備 3	フィールドワークのスケジュール決定	(予習) 演習で提示できるようにスケジュール案を作成する (復習) スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	(復習) 次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク ふりかえり 1	フィールドワークの報告 (速報)	(予習) 5 分程度の報告メモを作成・印刷する。(復習) 各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	(予習) 所定の資料の要約 (復習) 「速報」に追加する内容を、次回で提出する。
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク ふりかえり 2	①第 8 週～第 11 週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク ふりかえり 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット (A4 版 1 ページ) にまとめる。	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション (3 分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) ①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	(予習) 三川内焼についてのさらなる調査事項のリストを用意する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。</li> <li>・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。</li> <li>・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。</li> </ul>							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 470 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	35%	
情報収集、分析力	社会性のある問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	40%	
コミュニケーション力	(1)社会生活に必要なコミュニケーションのための知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	10%	
	(2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。</li> <li>2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。</li> <li>3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。</li> </ol>							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない。)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『日本人の英語』マーク・ピーターセン(著)、岩波新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	寺社1	寺社に関する表現1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 1-10について調べる 復習：英文1-10音読筆写
4	寺社2	寺社に関する表現2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20について調べる 復習：英文11-20音読筆写
5	飲食店	飲食店に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30について調べる 復習：英文21-30音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①（レベル2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40について調べる 復習：英文31-40音読筆写
7	食べ方	食べ方に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50について調べる 復習：英文41-50音読筆写
8	浮世絵1	浮世絵に関する表現1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60について調べる 復習：英文51-60音読筆写
9	浮世絵2	浮世絵に関する表現2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70について調べる 復習：英文61-70音読筆写
10	温泉	温泉に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80について調べる 復習：英文71-80音読筆写
11	温泉の効能	温泉の効能に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90について調べる 復習：英文81-90音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ②（レベル2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100について調べる 復習：英文91-100音読筆写
13	祭り	祭りに関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110について調べる 復習：英文101-110音読筆写
14	獅子舞	獅子舞に関する表現、TOEIC問題テスト実施、翻訳研究、ディスカッション	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120について調べる 復習：英文111-120音読筆写、振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA ( )			担当教員	大井田 かおり		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	年・期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、総合旅行業務取扱管理者試験（以下、「総合」と表記）への合格を前提に進めるが、国際社会に対応できるよう国・地域の幅広い知識を身に付けることも同時に目指しているため、資格試験を受験しない人でも、アウトバウンド観光やインバウンド観光に興味がある人は受講してよい。「総合」の範囲は膨大なので、学生自らの自発的な学びが必要である。							①⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外観光資源、国際航空運賃の計算方法を把握し、海外旅行実務の基礎的な流れを理解することができる。</li> <li>世界の国・地域の地理・歴史を把握し、出入国手続、国際航空、ホテル等海外旅行実務の基礎的な流れを理解することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション</li> <li>確認テスト</li> <li>授業態度</li> </ul>	20% 5% 5%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外旅行実務に必要な知識を深め、外国との比較といった視点から、日本の特質や地域の課題を理解することができる。</li> <li>データを分析し、文章を自分の言葉でまとめる力をつけ、自分の意見を論理的に発表できるようにする。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション</li> <li>授業態度</li> </ul>	35% 15%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルな視点から、国や地域の問題点や課題について議論することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション</li> <li>授業態度</li> </ul>	10% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対応したプレゼン資料を各自が準備し、ゼミで発表する。</li> <li>授業の最初に行う確認テストによって理解度を測定する。授業態度・授業への参加・受講者の発表については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。</li> </ul>							
授業の概要							
国際観光と、海外旅行業務の上で留意すべき点、身に付けるべき知識を学ぶ。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『海外観光資源』『海外旅行実務』『出入国法令と実務』『国際航空運賃・料金』、(株)JTB 総合研究所 課題図書：デニス・プーキン、カミール・グーリーイェヴ『KGBスパイ式記憶術』水王舎							
授業外における学修及び学生に期待すること							
「総合」の合格を目指して進めるため、国内旅行業務取扱管理者試験（以下、「国内」）科目合格以上の学生が優先となり、「国内」の対策は行わない。授業は「旅行業務取扱管理者養成講座」として行うので、受験希望者は、試験対策補講や模擬試験も同時に受講すること。本授業を履修する者は「海外旅行実務Ⅰ」「海外旅行実務Ⅱ」「旅行業論」を履修すること。プレゼン等に用いるためパソコンの環境を整えておく。また、インターンシップまたは長期インターンシップの参加を推奨する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	ゼミの進め方について説明する。	各自の目標を設定しておく。
2	世界の国・地域	世界の国・地域についての基礎的な知識を身に付ける。それぞれの国・地域のうち、日本からの観光客が多い主要国を正確に覚える。プレゼンとテストを実施。	世界の国について把握しておく。
3	時差の理解	時差についての基礎的な知識を身に付ける。地域間の把握、航空機での所要時間の計算について理解する。国・地域の英語名を覚える。プレゼンとテストを実施。	時差について予習しておく。
4	海外工員活動と記憶術	ロシアスパイの記憶術を紹介する。ここで紹介する方法は、試験にも役立つ。各自に合った方法で記憶術をアレンジするとよい。	『KGB スパイ式記憶術』を読んでおく。
5	世界の歴史と現代社会	世界史について概観し、現在の社会で問題となっている地域への理解を深める。外務省の海外安全ホームページの内容の読み方を学ぶ。航空関連の英文読解を行う。プレゼンを実施。	外務省の海外安全ホームページを見ておく。
6	航空の知識 1	世界の航空会社と世界の主たる空港について学ぶ。プレゼンとテストを実施。	世界の航空会社と空港について予習しておく。
7	航空の知識 2	日本に発着している世界の航空会社の航空運賃と等級や主たる航空機の種類と機内配置図等について学ぶ。プレゼンとテストを実施。	JAL や ANA の国際線の web サイトを見ておく。
8	国際航空運賃表の理解	国際航空時刻表の具体的な見方を復習し、合わせて 4, 5 回目で学んだ航空会社のコード、空港コードを読みこなす。プレゼンとテストを実施。	2, 3 レターの学習をしておく。
9	列車時刻表の理解	「ヨーロッパ鉄道時刻表」の時刻表の見方を習得し、世界の列車について学ぶ。鉄道関連の英文読解を行う。プレゼンを実施。	ヨーロッパの時刻表についての予習をしておく。
10	ホテルの知識	ホテルの種類とその特徴。ホテルの等級、客室タイプなど、ホテル関連の英文読解を行う。プレゼンを実施。	世界のホテルについて調べておく。
11	国境と出入国手続	国境の概念と旅券の基礎的な知識を身に付ける。出入国法令とその内容、税関手続、特に旅行者の免税の計算方法について正確に理解する。プレゼンとテストを実施。	出入国手続きについて把握しておく。
12	感染症、査証	SARS や BSE などの感染症、予防注射や査証についての理解を深め、これらが必要となる国・地域についての理解を深める。プレゼンとテストを実施。	感染症の用語の理解をしておく。
13	税関手続きと税金	税関手続、特に旅行者の免税の計算方法について正確に理解する。プレゼンとテストを実施。	免税について理解しておく。
14	国際社会と観光について	海外旅行に関する知識について各自がテーマを決めてプレゼンを行い、議論する。	プレゼンの準備をしておく。
15	まとめ	前期に学んだ内容について、海外旅行実務の受験科目に合わせた復習を行う。弱点部分は夏休み中の強化に向けて把握しておく。	海外旅行実務、出入国手続実務について復習する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、受講者が文献を講読・発表・議論する中で、文献を批判的に読み解き分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、他者と建設的な議論をする力、これらの力の養成を図りたい。テーマは「日本の教育と社会を語ろう、考えよう」とし、現代日本の教育問題や社会問題を討議していく。また文献の講読等を通じて、テーマに関わる基本的な法律や制度、時事問題の基礎知識を習得することもねらいとする。							①⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本の教育や社会問題等の時事的問題に関する基本的語句や事項を習得し、法律や制度の面からも、その事象の問題性を指摘できる。				レジュメ 発表と議論	15 % 15 %	
情報収集、分析力	テーマに関する資料や情報を自ら収集することができる。 テーマに関するデータや論文などを的確に読み取ることができる。				レジュメ 発表と議論	15 % 15 %	
コミュニケーション力	根拠となる資料を提示しながら自分の見解を述べ、他の受講者と議論することができる。				発表と議論	20 %	
協働・課題解決力	子ども達を取り巻く環境や日本社会が抱える問題について、自分なりに問題点を指摘し、解決に向けた方策を提案することができる				レジュメ 発表と議論	10 % 10 %	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レジュメの様式・内容を40%、発表と議論を60%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による批判的考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な議論を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席（特に担当日）は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業については、志水宏吉編『岩波講座 教育』全7巻に掲載されている論考を担当者がレジュメにまとめ、授業ではそれを基に議論する。また論考を読むにあたり、予備的、基礎的な事項を修得するため、教育学の教科書等で関連事項を習得する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない 指定図書：志水宏吉編『岩波講座 教育』（1～7巻）岩波書店（2016） 参考書：勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣（2015） 木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ【改訂版】』有斐閣（2019）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。また、議論には積極的に参加し、毎回必ず発言すること。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程を履修しているもの</li> <li>・日本の時事問題に関して理解を深めたいもの</li> <li>・子どもや教育の問題について関心のあるもの</li> <li>・論理的な思考法や論理的な文章作成法を学びたいもの</li> </ul> <p>※本演習の受講者には「教育学」の受講を勧める。また留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。</p> <p>※専門演習ⅡA終了後、夏期休暇中の課題として本1冊の講読を求める（発表は専門演習ⅡB）。</p>							



回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	興味関心を高める①	各自が最も興味を持っている教育問題・社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
4	興味関心を高める②	各自が最も興味を持っている教育問題・社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
5	興味関心を高める③	『岩波講座 教育』の全7巻から講読したい論考を選び、発表担当者を決定する。報告手法(レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。	予) 担当したいテーマを考えておく 復) 報告手法の復習
6	基礎知識の修得①	次週扱うテーマについて教科書等を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: 子どもの貧困と学力	予) 該当テーマに関する資料の講読 復) 基本的事項の確認
7	論考の講読①	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 山田哲也「格差・貧困から公教育を問い直す」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
8	基礎知識の修得②	次週扱うテーマについて教科書等を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: ネット社会と子ども	予) 該当テーマに関する資料の講読 復) 基本的事項の確認
9	論考の講読②	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 土井隆義「ネット・メディアと仲間関係」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
10	基礎知識の修得③	次週扱うテーマについて教科書等を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: ジェンダーと教育	予) 該当テーマに関する資料の講読 復) 基本的事項の確認
11	論考の講読③	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 木村涼子「ジェンダー秩序を巡る教育のポリティクス」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
12	基礎知識の修得④	次週扱うテーマについて教科書等を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: 教師の仕事	予) 該当テーマに関する資料の講読 復) 基本的事項の確認
13	論考の講読④	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 伊藤美奈子「教師のメンタルヘルス」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
14	興味関心を高める④	日本の教育問題・社会問題について本演習で学んだことを整理し、発表する。また、夏季休暇中に講読する本のテーマを決定する。	予) 発表準備 復) 議論を振り返る
15	まとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題本を決定する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 課題本を見つける 復) 議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
長崎県佐世保市をテーマに放送用プロ機材を使った映像作成と FM 放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。関連する資格取得を目指す。 観光の情報発信の手段として調査やイベントの企画・実施等のソフト的な取り組みと、観光に関わる基礎的知識を有し、観光情報を発信する能力を取得する。まちづくりイベントを起案し実践する 前年度は番組出演、映像作成・佐世保市との協働によるイベント企画運営を実践した。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	伝えたい情報を適切に判断し、正しく伝達することができる。				課題提示に対する個人によるプレゼンテーション	30%	
情報収集、分析力	情報機器の操作やネット関連の技術習得、情報コンテンツの作成ができる。観光情報の発信を通じて、メディアリテラシーを理解することができる。				企画・番組内容	40%	
コミュニケーション力	情報発信とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に意欲的に参加することができる。				授業態度・活動への参加度	20%	
協働・課題解決力	積極的に話し合いをし、自分から働きかける力を身につけることができる。				課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。プレゼンテーションやディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。まちづくりや放送に関するフィールドワークは中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：『調べる技術・書く技術』 講談社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。 情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：資格の調査分析
3	放送機材の活用	放送用機材を使った撮影録音操作・活用を実践する	予：映画を作るときに必要な機材を調べる
4	ポートフォリオ・Web 演習・面談	コミュニケーション用ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：SNSの登録とメールアドレスを確認と事前準備
5	番組・映像デザイン準備	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
6	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
7	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	予：事例研究・分析
8	文書作成とデータ管理	文章の作成とデータベース、グラフィックスの演習	予：アプリケーションの動作確認
9	映像プレゼンテーション	ソフトウェア操作、字幕やテロップの演習	予：指定サイトの参照
10	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成と番組出演	予：作成原稿の確認と読み合わせ
11	SNS・Web オープンソース	SNS・Webの操作・管理、コンテンツ作成	予：指定サイトの参照
12	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送や作品の作成と番組出演	予：作成原稿の確認と読み合わせ
13	放送実施企画	放送番組や映像作品内容の確認と内容研究	予：内容の確認と発表練習等
14	事前制作発表	グループでの番組やコンテンツを企画し発表する	予：作成原稿の確認と読み合わせ。事前確認・練習
15	制作発表	具体的な番組やコンテンツを企画し発表する	予：事前確認・練習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会の教育・学習のうち、「日本語とはなにか」といった問いから、社会におけることばのあり方、日本語政策論について学ぶ。身近な言語景観から「ことば」をつくる経験を通して、多文化共生社会における「日本語」「ことば」像を描き、あらたな言語観を生み出すための視点を培うことをねらいとしている。							①④⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	現代日本における「日本語」を様々な観点から考察し、社会状況から「日本語」のあり方の未来像を描くことができる。				レポート	30 %	
情報収集、分析力	日本語政策やそれに関する身の回りの課題の情報収集をし、分析、考察することができる。				発表資料 事前・事後学習	20 % 20 %	
コミュニケーション力	他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。				発表 ディスカッション	20 %	
協働・課題解決力	グループで課題発見活動を協働することができる。				相互評価 自己評価	10 %	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
レポートで30%、日本語政策に関する知識（事前・事後学習、発表資料）で40%、企画立案活動（発表、ディスカッション、自己相互評価）で30%、で評価する。							
授業の概要							
本演習では、日本語政策論についてグループディスカッションをしながら学ぶことを通して、「日本語」「ことば」を考える。そしてフィールドの課題を解決する「ことば」を提案・発表し、社会につなげることをめざす。発表等に対するフィードバックは授業内で行う。スケジュールは変更することがある。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜ハンドアウトを配布する 参考書：細川英雄、西山教行（編）（2010）『複言語・複文化主義とは何か ―ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』くろしお出版. 適宜紹介する 指定図書：庵ほか（編）（2018）『<やさしい日本語>と多文化共生』ココ出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、様々な観点から「日本語」「ことば」「教育」「学習」について考え、ことばをつくり、人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。教職課程を履修している学生、「ことば」と「学び」に興味がある学生の受講を期待します。留学生が受講する場合は、自分のことばでまとめながらディスカッション運営できること、文献を読み、レポート執筆できる日本語力が必要です。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習：自己紹介、「日本語」のイメージを話せるようにしてくる
2	省察・個人面談	専門演習Ⅰでの学びを省察し、今学期の見通し、個人目標をたてる。	予習：個人ポートフォリオの作成 復習：個人ポートフォリオの見直し
3	日本語政策の歴史 1	日本の言語政策の歴史について概観し、これまで「日本語」はどのように考えられてきたのかを理解する。	予習：ハンドアウトを読む 復習：内容の要約
4	日本語政策の歴史 2	「日本語」「ことば」とはなにかについて「共通語」、「標準語」の歴史に焦点あてて学び、考えていく	予習：ハンドアウトを読む 復習：内容の要約
5	現代の日本語政策 1	ヨーロッパで生まれた複言語主義の概念について学び、日本の日本語政策、教育へ与える影響を考える	予習：ハンドアウトを読む 復習：内容の要約
6	現代の日本語政策 2	個人の中の複言語とはどのようなことなのか、ワークを通して考える	予習：ハンドアウトを読む 復習：内容の要約
7	現代の日本語政策 3	多文化共生社会における論点として「やさしい日本語」について理解を深め、「日本語」を再考する	予習：ハンドアウトを読む 復習：内容の要約
8	現代の日本語政策 4	多文化共生社会における論点としてインクルージョンの考え方と実践を取りあげ、「ことば」を再考する	予習：ハンドアウトを読む 復習：内容の要約
9	これからのことばをつくる ①	これまで学んできたことを参考に、自分たちの「ことば」を考え企画立案、作成する。 ①では身近な言語景観観察を行う。	予習：ハンドアウトを読む 復習：内容の要約
10	これからのことばをつくる ②	①で観察したことから課題を発見し、解決方法を探る。	予習：言語景観観察の報告を書いてくる 復習：課題解決方法を考える
11	これからのことばをつくる ③	②の解決方法にもとづいて、企画立案し、企画に適したあらたなことばのルール、方法等を考える。	予習：企画を考えてくる 復習：ルールを確認
12	これからのことばをつくる ④	③の企画をにもとづき、企画の成果物を作成する	予習：企画成果物の作成
13	これからのことばをつくる ⑤	企画成果物の発表を行い、相互評価を行う	予習：企画成果物発表準備
14	これからのことばをつくる ⑥	④を受けて企画成果物の修正、再構成を確認し、完成させる。レポートの概要を説明し、作成の準備をする。	予習：企画成果物の修正
15	ふりかえり	今学期のふりかえりと協働省察を行う	予習：個人ポートフォリオ記入 レポートの作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>テーマ：国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。</b> 国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。 特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験は9月上旬							⑪ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業法」と「約款」で60点以上取得できる。				模擬試験	30%	
情報収集、分析力	旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業などかなり専門的な分野までその法規及び実務を理解する。				模擬試験	40%	
コミュニケーション力	旅行業及び関連業界への関心が高まり、かつ自らの旅行意欲が高まる。また、積極的にゼミ以外でも仲間とともに自主的な勉強会ができる。さらに下級生の指導ができる。				グループディスカッション	20%	
協働・課題解決力	旅行業としてやってはいけない行為は何かが判断できる。旅行者のニーズに応えた旅行業の在り方を旅行業法と共に考えることができる。				グループディスカッション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
学生が持ち回りで講師を務め、担当部分の課題を準備し、講義する。その際に、出された質疑に対する解答をする。これらグループディスカッションの取り組みを評価する（評価比率30%）。また、模擬試験を3回受験し、この点数を基に評価する（評価比率70%）。							
授業の概要							
内容としては、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものである。 本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、問題を解きながら学生主体で進めていく。 形式としては勉強会を考えてほしい。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所 指定図書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。 単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。また、週2回の特別講座に出来るだけ出席すること。夏休みには模擬試験3回および4日間の集中ゼミを行なうので参加すること。模試費用は5,500円。 なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないで注意してください。 ※本演習を選択するものは、次のコースもしくは専修課程を履修することが望ましい。 観光マネジメント、グローバルツーリズム、スポーツツーリズム、旅行業務取扱管理者養成課程							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	前期の進め方を説明する。 前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
3	旅行業法	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第1～6条の予習、復習
4	旅行業法	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第7～12条の予習、復習
5	旅行業法	料金揭示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第12条の該当箇所の予習、復習
6	旅行業法	外務員、広告	第12条の該当箇所の予習、復習
7	旅行業法	標識、企画旅行の措置、旅程管理業務	第12条の該当箇所の予習、復習
8	旅行業法	禁止行為、代理業	第13～15条の予習、復習
9	旅行業法	業務改善命令、旅行業協会	第18条～該当箇所の予習、復習
10	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第1条から第10条	旅行業約款 募集型企画旅行の部 第1～10条の予習、復習
11	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第13条から第19条	第13～19条の予習、復習
12	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第21条から第26条	第21～26条の予習、復習
13	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第27条から第30条	第27～30条の予習、復習
14	旅行業約款	受注型企画旅行の部、手配旅行契約の部、旅行相談の部	受注型企画旅行の部、手配旅行契約の部、旅行相談の部の予習、復習
15	旅行業約款	運送約款、宿泊約款	運送約款、宿泊約款の予習、復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	新藤 照夫		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
異文化コミュニケーションと英語圏と日本の文化比較をテーマとした授業を展開する。関連する理論やケーススタディを踏まえながら、観光分野でも求められる円滑な異文化コミュニケーションの知識やスキルの習得を目指すとともに、様々な言語メディアや文化要素を取り扱うことによって、卒業研究のテーマの探求も行う。							④⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーションについての基礎理論や英語の専門用語を理解し、具体例を挙げて簡潔に説明できる。</li> <li>調査した内容をまとめ、専門知識を活用した発表ができる。</li> </ul>			・プレゼンテーション		30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーションや文化比較の事例を収集し、分類できる。</li> <li>調査した内容をレポートにまとめることができる。</li> </ul>			・レポート		40%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに対しアサーティブなディスカッションを実践できる。</li> </ul>			・ディスカッション		20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによって、与えられたテーマに対する解決法を導き出すことができる。</li> </ul>			・グループワーク参加度		10%	
多様性理解力							
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションによって、調査した内容について、習得した専門知識を活用した発表を行う。(30%)</li> <li>レポートを課し、専門知識の理解度やスタディスキルの習得度を評価する。(40%)</li> <li>ディスカッションにおけるコミュニケーション力を評価する。(20%)</li> <li>授業時の学修状況やグループワークの参加度合を評価する。(10%)</li> <li>レポート、プレゼンテーション、グループワークに対して、ポートフォリオおよび授業時にフィードバックを行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>この授業では、異文化コミュニケーションのケーススタディや異文化トレーニングに関する英語教材を使用し、英語を通じて異文化コミュニケーションの理論やスキルの習得を図る。また、レポート作成、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションによって、スタディスキルやコミュニケーションスキルの向上も図る。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『Speaking of Intercultural communication』Peter Vincent 著（南雲堂）</p> <p>参考書：『異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる』八代京子 他著（三修社）</p> <p>指定図書：『Speaking of Intercultural communication』Peter Vincent 著（南雲堂）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業では、遅刻、無断欠席、途中退室などない積極的な参加を強く求めていく。</li> <li>日常生活の中で、文化背景の異なる他者との異文化コミュニケーションや文化比較に強い関心を持ってもらいたい。</li> </ul>							



回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	・予習: 前学期の省察と本学期の目標設定の下書き ・復習: 本学期の目標設定の清書
2	Communication ①	文化とコミュニケーションの関係についての解説、ディスカッション	・予習: Unit 1 Reading, Activity 1 & 2 ・復習: Unit 1 Reading, Activity 1 & 2
3	Communication ②	文化とコミュニケーションの関係を題材としたペアワーク、グループワーク	・予習: Unit 1 Activity 3-5 ・復習: Unit 1 Activity 3-5 ポートフォリオの回答
4	Culture ①	Hallの理論、文化の島についての解説、ディスカッション	・予習: Unit 2 Reading, Activity 1 & 2 ・復習: Unit 2 Reading, Activity 1 & 2
5	Culture ②	Hallの理論、文化の島を題材としたペアワーク、グループワーク	・予習: Unit 2 Activity 3-7 ・復習: Unit 2 Activity 3-7 ポートフォリオの回答
6	Nonverbal Communication ①	非言語コミュニケーションについての解説、ディスカッション	・予習: Unit 3 Reading, Activity 1-3 ・復習: Unit 3 Reading, Activity 1-3
7	Nonverbal Communication ②	非言語コミュニケーションを題材としたペアワーク、グループワーク	・予習: Unit 3 Activity 4-8 ・復習: Unit 3 Activity 4-8 ポートフォリオの回答
8	Communicating Clearly ①	コミュニケーションスタイルについての解説、ディスカッション	・予習: Unit 4 Reading, Activity 1-3 ・復習: Unit 4 Reading, Activity 1-3
9	Communicating Clearly ②	コミュニケーションスタイルを題材としたペアワーク、グループワーク	・予習: Unit 4 Activity 4-8 ・復習: Unit 4 Activity 4-8 ポートフォリオの回答
10	Culture and Values ①	非言語コミュニケーションについての解説、ディスカッション	・予習: Unit 5 Reading, Activity 1-3 ・復習: Unit 5 Reading, Activity 1-3
11	Culture and Values ②	非言語コミュニケーションを題材としたペアワーク、グループワーク	・予習: Unit 5 Activity 4-7 ・復習: Unit 5 Activity 4-7 ポートフォリオの回答
12	Culture and Perception ①	文化と知覚の関係についての解説、ディスカッション	・予習: Unit 6 Reading, Activity 1-3 ・復習: Unit 6 Reading, Activity 1-3
13	Culture and Perception ②	文化と知覚の関係を題材としたペアワーク、グループワーク	・予習: Unit 6 Activity 4-6 ・復習: Unit 6 Activity 4-6 ポートフォリオの回答
14	レポート作成	テーマに関するレポート作成	・予習: レポートの下調べ ・復習: レポートの仕上げ、プレゼン資料の作成
15	プレゼンテーション	テーマに関する発表	・予習: プレゼンのリハーサル ・総復習、レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	早坂 昌彦		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>専門演習Ⅰにおいて、学生は、「3つの武器(読む(考える)力、書く力、話す力)」と「チームワーク」の技能を身に付けた。それを踏まえ、この半期の専門演習では「問題解決」の技能を身に付けることを目標とする。学生が社会に出れば、最初のうちは定常的な業務を担当するかもしれないが、しばらくするとその職場・業務が抱える「問題・課題」に気付くだろう。その問題・課題から目を背けず、自分の立場からではあるものの、適切にアプローチし、解決に導くことができれば、職場環境はより良いものになり、なにしろより楽しいものになるだろう。</p> <p>よって、この半期では、問題解決に特化した反復演習を行う。具体的には、毎回、別々のメンバーとチームを組んでもらい、冒頭で提示した「問題・課題」に関し、チームで検討・作業の上、その成果をプレゼンテーションしてもらおう。この演習を繰り返すことにより、後期に進む際、学生は突然課題を与えられても、思考が止まることはなくなるであろう。</p> <p>なお、上記が全受講者共通の内容であるが、同時に、3つのチーム(①観光事業・IRチーム、②地域振興チーム、③起業・新規事業チーム)に分かれ、別途自主的な活動を行い、定期的にこの場でチーム毎に活動内容をプレゼンしてもらおう。</p>							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	毎回、ある専門的な「問題・課題」に対し、チームで短期間に意見をまとめショートプレゼンテーションを行うことができる。				毎回のショートプレゼンテーション	40%	
情報収集、分析力	ある「問題・課題」に関し、チームで一定期間情報収集・分析を行い、プレゼンテーションを行うことができる。				2回のプレゼンテーション	60%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>評価は、毎回演習の中で行ってもらうショートプレゼンテーションと、2回のプレゼンテーションの内容に基づき行う。またその評価はチーム毎に行う。なお、毎回の演習での参加態度および自主的な活動も含めた演習の運営に関する態度も加味する。</p>							
授業の概要							
<p>基本的な進め方として、毎回の演習を次の2つの時間帯に分け、進めていく。</p> <p>① 毎回別々の3人程度のチームを作り(チームは教師がランダムにアレンジする)、A4 1枚程度の文書(例:新聞の社説)を読んでもらい、その場でチームとしての考えをまとめ、ショートプレゼンテーションを行ってもらう。</p> <p>② 各チーム(①観光事業・IRチーム、②地域振興チーム、③起業・新規事業チーム)毎に、活動状況に関するプレゼンテーションをしてもらう。</p> <p>ただし、詳細な進め方は、学生の希望・関心、負担感等を踏まえ、微調整することがあり得る。</p> <p>なお、演習での個々の問題解決に取り組むにあたり、経営学等の知識が必要になる場合がある。その場合は、適宜教師が補足の情報提供または補講を行う。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書/参考書:特に指定しない。必要な資料等は演習時に配布する。</p> <p>指定図書:渡辺健介「世界一やさしい問題解決の授業」ダイヤモンド社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習では当然ながら各学生の主体的な取組みが必須である。主体的に取り組むためには、各学生がこの演習の内容が自分の関心事項であるか、将来役に立つと思える必要がある。よって、そう思えない場合は、その旨教師や演習の仲間に伝え、改善を求める必要がある。このように、演習の運営にも自分事として主体的に関わっていくことが期待されている。その経験は、学生が社会に出てから必ず役に立つ。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体の導入	専門演習Ⅰの取組みを振り返った後、専門演習Ⅰでどのような演習を運営していくのか等を確認する。	予習：専門演習Ⅰの目標達成度を自己評価しておく。
2	個人面談・目標設定	演習を開始するにあたって、個々の学生の興味のあり方の確認や、個人目標の設定等を行う。	予習：キャリアワークシートに記入する。
3	専門演習Ⅰのおさらい	専門演習Ⅰで学んだ技能をおさらいする	復習：演習の資料を再読する。
4	「問題解決」演習①	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
5	「問題解決」演習②	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
6	「問題解決」演習③	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。(プレゼンテーション①の課題とチームリストを提示する)	復習：演習の資料を再読する。
7	「問題解決」演習④	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション①の準備 復習：演習の資料を再読する。
8	「問題解決」演習⑤	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション①の準備 復習：演習の資料を再読する。
9	プレゼンテーション①	プレゼンテーション①の発表を行う。	予習：レポート①の発表の準備 復習：発表の資料を再読する
10	「問題解決」演習⑥	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
11	「問題解決」演習⑦	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
12	「問題解決」演習⑧	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。(プレゼンテーション②の課題とチームリストを提示する)	復習：演習の資料を再読する。
13	「問題解決」演習⑨	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション②の準備 復習：演習の資料を再読する。
14	「問題解決」演習⑩	上記授業の概要に基づき、「問題解決力」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション②の準備 復習：演習の資料を再読する。
15	プレゼンテーション②及びまとめ	プレゼンテーション②の発表を行う。 半期の演習の成果を振り返る。	予習：演習の成果を振り返る。 復習：発表の資料を再読する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本ゼミでは、「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」で学習した「総合型地域スポーツクラブ」の基礎知識をもとに、学生たちが主体となってディスカッションやグループワークを行いながら、スポーツイベントを企画・実施できるようになることを目指す。実践の場として、「チャレンジスポーツ」の指導や「スポーツフェスタ」の広報から企画運営まで、スポーツイベントに主体的に取り組み学修することをねらいとしている。							④、⑤、⑥、 ⑦、⑩、⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	総合型地域スポーツクラブのことを説明することができる。また、スポーツイベントの運営を補助することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成	15% 20%	
情報収集、分析力						%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。また、スポーツイベントの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成 ・課題レポート	15% 20% 30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。ポートフォリオで課題レポートのフィードバックを行うので確認すること。							
授業の概要							
年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができるようになることを目指す。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『地域を変えた 総合型地域スポーツクラブ』山口 泰雄 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツマネジメント論』吉田良治 昭和堂							
授業外における学修及び学生に期待すること							

各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向きボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。  
 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい  
 スポーツツーリズム、観光マネジメント、グローバルツーリズム

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	ゼミのテーマと進め方についてのオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジュメを作成する。
2	総合型地域スポーツクラブの誕生	総合型地域スポーツクラブ育成の背景と現状について	先行文献を調べ、レジュメを作成する。
3	総合型地域スポーツクラブの誕生	自治体のリーダーシップによる「スポーツクラブ 21 ひょうご」のモデル事例	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
4	スポーツイベントの作り方(概論)①	スポーツイベント作成の理由について学ぶ	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
5	スポーツイベントの作り方(概論)②	スポーツイベントが地域に及ぼす影響について学ぶ	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
6	スポーツイベントの作り方(概論)③	スポーツイベントと地域活性化について学ぶ	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
7	スポーツイベントの作り方(概論)④	他の地域で行われているスポーツイベントについて学ぶ	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
8	スポーツイベントの作り方(概論)⑤	スポーツイベントとリスクマネジメントについて学ぶ	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
9	スポーツイベントの広報について	「チャレンジスポーツ」や「スポーツフェスタ」の広報のやり方について学修する。	スポーツイベントの広報についてインターネットから調べてくる。
10	スポーツイベントの企画について	「チャレンジスポーツ」や「スポーツフェスタ」の企画の作り方について学修する。	イベントの企画方法について参考資料を3つ調べてくる。
11	スポーツイベントの運営について	「チャレンジスポーツ」や「スポーツフェスタ」の運営方法について学修する。	他のスポーツイベントが行っている運営方法について調べてくる。
12	スポーツイベントの事例研究(子ども対象)	子ども対象のスポーツイベントについて研究する。	子ども対象のスポーツイベントを企画してくる。
13	スポーツイベントの事例研究(女性対象)	女性対象のスポーツイベントについて研究する。	女性対象のスポーツイベントを企画してくる。
14	スポーツイベントの事例研究(高齢者対象)	高齢者対象のスポーツイベントについて研究する。	高齢者対象のスポーツイベントを企画してくる。
15	中間的評価と反省	前期のゼミ活動を振り返り、その成果を確認する。	これまで作成した資料を見直してくる。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習のねらいは、日本語教育に必要な言語知識を習得するとともに、それらを分かりやすく説明する力を養うことです。そのため、授業は履修者による発表を中心に進めます。日本語を音声、語彙、文法の各方面から理解し、同時に説明力を身につけましょう。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育に必要な言語知識を身につける。				発表資料	30%	
情報収集、分析力	教科書を読み理解した上で、分かりやすく説明できる。				発表	50%	
コミュニケーション力	発表した内容に対し、質問やコメントができる。				ディスカッション	15%	
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して発表資料を作ることができる。				発表準備	5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分が担当する箇所の発表で50%、発表資料で30%、発表後のディスカッションへの参加度で15%、発表準備の状況で5%を評価します。発表に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックします。							
授業の概要							
前半は教科書を読みそれを簡潔にまとめ発表する練習をします。毎回の授業の予習として、教科書の各テーマについてよく読んでください。発表者は担当箇所のテーマの資料を作成して説明し、発表者以外の方はコメント・質問し、全員でディスカッションします。後半は、卒業研究のテーマのヒントになりそうな「日本語学」の問題について分析したり考えたりします。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：今井新悟ほか『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク、2018 参考書：野田尚史ほか『日本語を分析するレッスン』大修館書店、2016 指定図書：高見澤孟ほか『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』アスク、2016							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、日本語教育に必要な言語知識を体系的に学びたいと考えている人を対象にします。留学生は、教科書の内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。発表者は担当箇所をしっかりと理解し、よく準備をした上で発表にのぞんでください。発表者以外の方もしっかりと該当箇所を読みこみ、質問などの準備をして授業にのぞんでください。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	授業の進め方、発表の方法について説明。 「日本語はどんな言語か」を理解する。	復習：配布プリントを読む。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き。 復習：本学期の目標設定の清書。
3	日本語の音声とアクセント	日本語の音声とアクセントについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第1章を読み、第1章の練習問題を解いておく。
4	日本語の文字と語彙	日本語の文字と語彙について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第2章(p42-p54)を読み、第2章の練習問題を解いておく。
5	日本語の語の種類	日本語の語の種類について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第2章(p54-p78)を読み、第2章の練習問題を解いておく。
6	文法：指示詞	指示詞について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p84-p95)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
7	文法：形容詞	形容詞について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p96-p109)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
8	文法：動詞	動詞について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書第3章(p109-p127)を読み、第3章の練習問題を解いておく。
9	ことばの意味	ことばの意味について分析する。 問題について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、「ことばの意味」について考えておく。
10	若者ことば	若者ことばについて分析する。 問題について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、「若者ことば」について考えておく。
11	会話の失敗	どんなときに会話が失敗するのかについて考える。 問題について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、「会話の失敗」について考えておく。
12	話しことばと書きことば	話しことばと書きことばについて考える。 問題について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、「話しことばと書きことば」について考えておく。
13	カタカナ	カタカナについて考える。 問題について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、「カタカナ」について考えておく。
14	方言	方言について考える。 問題について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、「方言」について考えておく。
15	まとめ	これまでの学習項目について興味を持ったものについて発表。	予習：興味をもったテーマについて発表の準備。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIA (CF 301)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。							①⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
情報収集、 分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	20%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の70%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							



回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	古代インダス文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
15	古代インダス文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習ⅠA・ⅠBの流れを汲み、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問題を設定し、それについての答えをみつけるための哲学的思考能力に加え「論証力」を培うことを目的とする。そのために、論文執筆や実践のための指導計画に必要な技術習得を目標とする。卒業論文の執筆にあたっては「体育」「スポーツ」およびそれに関連するテーマを個人の関心や問題意識に基づいて設定し、本演習を通じて各々に合った研究方法を選定し取り組む。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）の中で論文のストーリーを創り上げていくことを重視する。</p>							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	「体育」「スポーツ」「身体」に関する問いを人文科学的に考察できる。体育スポーツの専門的な指導計画の立案や実践ができる。				・ 専門分野研究の要約内容 ・ 指導立案や指導実践	15% 15%	
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。				・ 資料収集 ・ 専門分野に関する問題設定	30% 20%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ（要約、自分なりの考察）が作成されているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。</li> <li>・ 運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）を作成し、指導が展開されているかを評価する。</li> <li>・ フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問いを共有するためのレジュメ等の発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する。適宜運動実践も交えつつ発表内容や実践の省察を対話形式で実施する。</li> <li>・ 本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする姿勢である。</li> <li>・ この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</li> </ul>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 菅野一徳 2017 筑摩書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に前期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「論文」という伝え方ⅡA	論文は感想文やレポートと何が違うのか	予習：『新版 論文の教室』を通読 復習：図書「はじめに」と「おわりに」を再読
4	レジュメの作成ⅡA	主張の抽出と思考の言語化ⅡA (テーマ：要約作業から論証作業へ)	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成ⅡA	授業/指導計画と種目の教材化ⅡA (実技指導の対象に加え環境を選定)	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：遊びを本質とするスポーツ)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：体育、スポーツ、運動部活動、武道の区別)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：ボールゲーム)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：スポーツ指導に科学的知識を活かす)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：パフォーマンス向上のための取り組み)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：陸上競技関連)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：スポーツ成績を左右するのは身体能力かメンタルか、幼少期からスポーツをすることの是非)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (テーマ：幼児体育の指導法)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	前期授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	高橋 憲司		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡBでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツに関する各種測定評価法の習得」を3大目標として、演習を展開します。ⅡAの前半から、各種ワークを通じて個人およびチームにて課題解決に取り組みます(コミュニケーション力)。また、PCもしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能を習得します(メディアリテラシー)。ⅡAの後半では、スポーツに関する各種測定評価法について実践を通じて修得し、研究に活用できるデータを同時に収集します。							① ② ⑤ ⑦ ⑩ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種スポーツの基礎的知識・マナーを修得できる</li> <li>スポーツに関する各種測定方法を適切に実施できる</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題レポート</li> <li>測定実技試験</li> </ul>	10%	10%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCもしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。</li> <li>必要な文献および測定データを適切に収集できる</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>作業課題</li> <li>研究レポート</li> </ul>	10%	30%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ生同士で円滑にコミュニケーションがとれる。</li> <li>他のゼミ生に対して、適切な指摘ができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークへの取り組み態度とワークによる成果</li> </ul>	20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種ワークに対して、共同して全力で取り組むことができる</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークへの取り組み態度とワークによる成果</li> </ul>	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> </ul>	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>●ワークへの取り組みと成果(30%)：2～11回の全10回の結果で評価(各回3点満点：態度評価0～2点、成果0～1点)、各授業の後半にフィードバック。●作業課題(10%)：メディアリテラシー課題を11段階で評価(0～10点)、13回の授業時にフィードバック。●測定実技試験(10%)：第13回に実施、評価、フィードバックを行う。●課題レポート(10%)：競技スポーツの特長について、11段階で評価(0～10点)、第10回時にフィードバック●授業態度(10%)：10点満点から減点法とし、不快と感じさせるような行為に対して、その都度注意して、減点理由を説明する。●研究レポート(30%)：授業での研究活動の内容を総合評価し、成績入力日までに個別にフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施する。また、メディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにする。さらに、スポーツに関する専門的知識を高め、研究を行うための基礎力を習得します。尚、各スポーツ体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じることがあります(見学も可)。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：「健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法-ここが知りたかった測定と評価のコツ-」監修出村 慎一。 参考書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」佐藤 進 他(杏林書院) ISBN-13: 978-4764411081 指定図書：教科書に同じ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<b>授業外における学習</b> ：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各スポーツの特性や可能性を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集を行ってほしい。 <b>学生に期待すること</b> ：「挨拶・礼儀」「時間厳守」「整理整頓」の基礎的社会的マナーを守り、主体的・積極的にゼミの活							

動に取り組んでほしい。授業を欠席する場合は、事前に連絡をするようにしてほしい。スポーツによる外傷・障害のある場合は、初期評価・相談が可能なので、気軽に相談をしてほしい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習授業の進め方についての説明</li> <li>・メディアリテラシー（連絡網作成）</li> <li>・自己紹介&amp;他己紹介</li> </ul>	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	スポーツの規則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（苦手なスポーツ）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成・タイピング）</li> <li>・レギュレーションとルールの違い</li> </ul>	予習：レギュレーションとルールとの違いを調査 復習：1種目において、レギュレーションとルールに類別する
3	各種スポーツを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（得意なスポーツ）</li> <li>・メディアリテラシー（情報収集）</li> <li>・競技スポーツの特長を知る</li> </ul>	予習：競技種目1つを選択し特長調査 復習：実際に興味のあるスポーツの情報収集（文献の検索）をする
4	ターゲット型球技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（簡易ゲーム）</li> <li>・メディアリテラシー（文書作成・レポート）</li> <li>・ターゲット型球技の特長を知る</li> </ul>	予習：ターゲット型球技の特長調査 復習：ターゲット型球技を実際に体験する（ダーツ、ボーリング等）
5	ターゲット型球技の体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（心理ゲーム）</li> <li>・ターゲット型球技（ポッチャ・ゴルフ等）の体験</li> </ul>	予習：怪我予防のため、30分以上の運動を週2日間以上行う 復習：ターゲット型球技を体験した疑問点・所感を整理する
6	個人競技スポーツ体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（準備体操）</li> <li>・個人競技スポーツ（主に陸上）の体験</li> </ul>	予習：怪我予防のため、30分以上の運動を週2日間以上行う 復習：個人競技スポーツを体験した疑問点・所感を整理する
7	課題レポート（競技スポーツ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）</li> <li>・メディアリテラシー（エクセル演算・基礎）</li> <li>・課題レポートの作成（締め切り：第9回終了時）</li> </ul>	予習：これまで調査・体験した競技スポーツの論点をまとめる 復習：課題レポートの作成
8	競技スポーツにおける性（セメンヤの事例）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）</li> <li>・メディアリテラシー（エクセル演算・応用）</li> <li>・スポーツのセクシャルマイノリティー理解</li> </ul>	予習：キャスター・セメンヤ（選手）について調査 復習：五輪憲章の性への記述を確認
9	eスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（eスポーツ）</li> <li>・メディアリテラシー（エクセル統計・基礎）</li> <li>・eスポーツの存在と是非</li> </ul>	予習：国体eスポーツ種目を調査 復習：体験版のeスポーツを60分以上体験する
10	スポーツの測定評価法① 資料編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（疑似接客）</li> <li>・メディアリテラシー（エクセル統計・応用）</li> <li>・測定評価法の手順</li> </ul>	予習：教科書から、興味のある測定法3つを確認する 復習：測定協力者（3人以上）の確保
11	スポーツの測定評価法② 測定練習編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（営業トーク）</li> <li>・選択した測定評価法の測定練習</li> <li>・メディアリテラシー（測定用紙作成）</li> </ul>	予習：測定手順・教示をマスターする 復習：専用の測定用紙を作成する
12	スポーツの測定評価法③ 予備実験編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ミーティング）</li> <li>・選択した測定評価法の予備実験</li> <li>・メディアリテラシー（データ入力）</li> </ul>	予習：測定方法の練習をする 復習：データ入力の独自フォーマットを完成させる
13	スポーツの測定評価④ ※測定実技試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定実技試験</li> <li>・試験の振り返り（フィードバック）</li> <li>※作業課題のフィードバック</li> </ul>	予習：選択した測定方法について、熟練するまで反復練習する 復習：実技試験・フィードバックを踏まえ、改善点を整理する
14	研究レポートの作成① 必要データの取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの取得</li> <li>※研究レポート課題（締め切り：15回終了の1週間後）</li> <li>・研究レポートの文書作成方法</li> </ul>	予習：不足のデータがないか事前に確認する 復習：レポート作成に取り組む
15	研究レポートの作成② レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レポートの作成</li> </ul>	予習：研究レポートの作成 復習：研究レポートを完成させる

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	陳 慶光		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます発展する市民マラソン大会を通じて、スポーツツーリズムによる地域活性化を広い視点から学ぶ。今後のスポーツイベント運営・企画を担う人材に成長できるよう、専門演習Ⅰと異なる視点からフィールド調査とレポート執筆を中心に進める。そうすることで地域の魅力を再発見し、引き出し、ひいては地域活性化に結実させる。							②⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツツーリズムを全般的に理解することができる。				演習への参加度	30%	
情報収集、分析力	フィールド調査で得られたデータを科学的に分析できる。				研究レポートとプレゼンテーション	50%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、調査結果をレポートとしてまとめることができる。プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。				研究レポートとプレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レポートとプレゼンテーション：スポーツツーリズムとフィールド調査に関する様々な概念の趣旨を身につけているかについて評価する。</li> <li>・演習への参加度：議論やグループワークへの参加度合を評価する。 フィールド調査とレポート執筆の各段階におけるフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。</li> </ul>							
授 業 の 概 要							
<p>本演習では、調査研究とレポート執筆を通して、コミュニケーション力と情報収集、分析力および課題解決力を身に付ける。スポーツツーリズムの現場でのフィールド調査を通じて、スポーツイベントに関する施策における課題、知識を徹底的に学びます。前期には問題設定と先行研究の渉猟、調査計画と予備調査を実施し、後期の本調査に備える。なお、各調査地域への旅費は各自で実費を負担する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定しない。 参考書：適宜紹介する。 指定図書：『スポーツツーリズム・ハンドブック』、日本スポーツツーリズム推進機構編、学芸出版社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							

膨大な知識と経験を要する、「スポーツツーリズム」と「フィールド調査」について総合的に学びます。そのため、毎回の課題が数多く設定されます。継続的かつ主体的な学習態度が求められます。

本演習を選択する学生は、スポーツツーリズムを履修することが望ましい。さらに、専門演習ⅠからⅢにかけて、マラソン大会のランナー、ボランティア、観客として積極的に参加を推奨します。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰの成果を振り返り、本学期の目標を設定する。。	予習：シラバスを読む 復習：目標設定
2	マラソン大会におけるスポーツツーリズム ①	「する」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
3	マラソン大会におけるスポーツツーリズム ②	「みる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
4	マラソン大会におけるスポーツツーリズム ③	「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
5	フィールド調査の準備 ①	フィールド調査(予行)の対象になるハウステンボスバラとワインマラソン(暫定)について、相互に討論して、各自調査したいテーマを決定する。	予習：調査対象について調べておく 復習：目標設定と修正
6	フィールド調査の準備 ②	フィールド調査におけるデータ収集方法(アンケート、参与観察、インタビュー)について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
7	フィールド調査の準備 ③	校内でアンケート調査、参与観察、インタビュー調査を予行練習する。ハウステンボスバラとワインマラソン開催期間中にフィールド調査を行う。	予習：調査計画を立てる 復習：調査票の精査
8	調査結果のまとめ ①	フィールド調査を振り返り、ICTを活用したデータの整理・分析について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データの整理
9	調査結果のまとめ ②	質的データ分析の応用について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データ分析の応用
10	調査結果のまとめ ③	量的データ分析の応用について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データ分析の応用
11	研究レポートの作成 ①	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
12	研究レポートの作成 ②	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
13	研究レポートの作成 ③	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
14	研究結果の発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	まとめと展望	各自が本学期の調査を振り返り、後期の本調査(長崎平和マラソン、暫定)に向けて検討する。	本学期の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA(CF301)			担当教員	東出 朋		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業は日本語教育の「教育」の側面について学ぶ。日本語教育そのもの、日本語教師、日本語学習者、試験などの日本語教育に関連する基礎的な知識を学び、日本語教育の現場を多様な側面からとらえることができるようになる。							③④⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育の「教育」に関する知識を身につける。				レポート	30%	
情報収集、分析力	新聞や雑誌から日本語教育に関する必要な情報を収集し、分かりやすく発表することができる。				発表	50%	
コミュニケーション力	発表の要点を正しく理解し、適切な質問をしたり建設的なコメントを与えたりすることができる。				ディスカッション リフレクションカード	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
演習内での発表（関連する情報の収集・整理・分析も含む）を主に評価する（50%）。発表後にはクラス全体でディスカッションを行い、その内容をリフレクションカードとして提出する（20%）。発表とリフレクションカードについては次の授業で教師がコメントする。学期末には、学期中に扱ったテーマの中から1つ選び、レポートを提出する（30%）。							
授業の概要							
本演習は、日本語教育の「教育」の側面を扱う。文法など言語の構造に関する内容は扱わない。日本語教育そのもの、日本語教師、日本語学習者、試験など日本語教育に関連する基礎的な知識を学ぶ。授業では、教科書に沿って、発表とディスカッション、グループ活動を中心に据える。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：森篤嗣（編）（2019）『超基礎・日本語教育』くろしお出版 参考書：特になし 指定図書：ブレイディみかこ（2019）『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
日本語学校や大学での日本語教育以外に、広く「日本語教育」に関心を持ってほしい。2019年6月には「日本語教育推進法」が可決され、これからますます日本語教育の重要性が議論されるだろう。新聞やテレビなどで日本語教育に関するニュースを積極的にチェックし、また身近な日本語教育現場について考え、日本語教育に主体的に関わることを期待する。							



回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	進め方の確認, アイスブレイク, レディネス調査	事前にシラバスをよく読み, 学習項目を確認する.
2	1章 日本語教育とは	日本語教育, 国語教育, 英語教育	予習) 課題1を記入 復習) pp. 12-18を読む
3	1章 日本語教育とは	外国語教育, 第二言語教育	予習) 課題2を記入 復習) p. 19を読む
4	2章 日本語学習者とは	学習者の種類	予習) 課題1を記入 復習) pp. 20-28を読む
5	2章 日本語学習者とは	留学生, 労働者, 生活者, 児童	予習) 課題2を記入 復習) 課題3を記入, p. 29を読む
6	3章 日本語教師とは	日本語教師になるためには	予習) 課題1を記入, p. 38を読む 復習) pp30-37を読む
7	3章 日本語教師とは	日本語教師の職場と雇用	予習) 課題2を記入 復習) 課題3を記入
8	4章 日本語能力の測定と試験	言語能力の測定	予習) 課題1を記入, p77を読む 復習) pp. 39-41を読む, 課題2を記入
9	4章 日本語能力の測定と試験	JLPT と EJU	予習) 課題4を記入 復習) 課題5を記入
10	6章 さまざまな教授法	様々な外国語教授法	予習) 課題1を記入 復習) pp. 59-65を読む
11	6章 さまざまな教授法	直接法と間接法	予習) 課題3を記入 復習) 課題4を記入
12	9章 ティーチャートークとやさしい日本語	ティーチャートーク, 教室談話	予習) p. 95を読む 復習) pp. 86-94を読む
13	9章 ティーチャートークとやさしい日本語	やさしい日本語	予習) 課題2・3を記入 復習) 課題4を記入
14	15章 これからの日本語教育	日本語教育の「教育」とは何か, 教師のスキル	予習) 課題1を記入 復習) pp. 136-143を読む
15	15章 これからの日本語教育	これからの教師に求められる能力 前期のまとめ	予習) 課題3を記入, レポートのトピックを考えてくる

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course provides an introduction to research skills in English. Working in stages, students learn basic technical, academic and communication skills necessary for researching a topic. Specifically, students will learn about how to find information, how to summarize, and how to use sources to clearly write about a topic.							④ ⑤ ⑦
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	Students will write a correctly formatted research paper Students will write a short research paper based on a topic provided to them			Report Report		10% 30%	
情報収集、 分析力	Students will be able to collect and organize information from sources			Assignments		50%	
コミュニケーション力	Students will be able to discuss ideas about a research topic in a way that informs and engages their audience			In-class engagement		10%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出 席				受験要件			
合 計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions and mini-presentation): 10% Assignments (Complete weekly assignments and preparation work for projects): 50% Report (Complete a short research paper which uses sources to address a given topic) 40% * All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook ( <a href="https://niu.9learn.net/">https://niu.9learn.net/</a> and Google Classroom)							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss how to find information about a topic and present their findings. From this, they move on to preparing for a research paper. Working in stages, students research a topic in order to answer a specific research question. Students will discuss and present their ideas as well as write. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書 : None 参考書 : J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書 : Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are required to have a tablet or notebook computer connected to NIU WIFI. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduce the course and review the syllabus</li> <li>• Students learn about each other</li> <li>• What is research? Previous experience</li> </ul>	Read syllabus in advance
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>Rubric hyoka</i>, 100 book policy (what &amp; how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays</li> </ul>	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Conference with seminar teacher about personal goals for the semester</li> <li>• Check <i>Rubric Hyoka</i> and 100 Book status</li> </ul>	Students meet with teacher about rubric
4	Finding sources	<ul style="list-style-type: none"> <li>• What is a source?</li> <li>• High vs low quality sources</li> <li>• What is plagiarism?</li> </ul>	Students prepare sources about their topic
5	Evaluating sources	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Evaluating students' sources</li> <li>• Further information about plagiarism</li> </ul>	Students find further sources based on teacher feedback
6	Library tools for sources	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Visit the library to investigate tools for investigating sources</li> </ul>	Students find one research journal source and bring it to the next class
7	Using sources 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Note taking skills for sources</li> </ul>	Students take notes on sources and bring to the next class
8	Using sources 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Summarizing information</li> <li>• Paraphrasing information</li> <li>• In-text citations</li> </ul>	Students write one sentence / paragraph summaries of their sources
9	Using sources 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students receive feedback about their writing and improve</li> <li>• In-text citations and references section</li> </ul>	Students improve their summaries for next class
10	Format of research papers	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Understanding research topics and basic formats for research papers</li> <li>• Students organize their notes into a coherent outline</li> </ul>	Make an outline which answers the topic question
11	Draft paper first half	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Workshop on the first half of students' research paper</li> </ul>	Write the first half of the paper
12	Draft paper second half	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Workshop on the second half of students' research paper</li> </ul>	Improve first half. Write the second half of the paper.
13	Final paper formatting	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Best practices for formatting academic papers</li> <li>• Check 100 Book status</li> </ul>	Improve the second half. Adjust formatting.
14	Mini-presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present and discuss the topic of their papers</li> </ul>	Give presentation about topic and discuss.
15	Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students receive feedback on their final papers</li> </ul>	Receive feedback about paper. Make final changes.

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、臨床心理・健康心理の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎知識を専門的に実施している競技に応用して考え、ディスカッションを通じて知識を深めることができるようにする。さらに、スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、レポート作成を通してデータ収集、分析、心理的考察の方法を実践的に学ぶ。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツ指導者および現役のアスリートとして、運動・スポーツにおける心理的課題とその対処法についての基本知識を専門用語を用いて説明することができる。研究計画を立て、調査結果を分析することができる。				プレゼンテーション資料 調査・実験レポート	10% 10%	
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。				プレゼンテーション資料 調査・実験レポート	30% 30%	
コミュニケーション力	スポーツ場面における心理的要因について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、質疑応答に応じることができる。				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。</p> <p>調査・実験レポート：ゼミ内で行う調査・実験について専門用語を用いてまとめることができているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーションおよびプレゼンテーション資料は、授業内で随時フィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、競技心理およびメンタルトレーニング技法、スポーツ指の楽しさを中心的に学ぶ。各章の担当者を決定したのち、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、ゼミ内でディスカッションを行う。</p> <p>後半は、競技心理・メンタルトレーニング・スポーツの楽しさに関する実験・調査を計画し、調査・実験計画書の作成、データ収集、分析、レポートの作成を通してスポーツ心理学の研究方法を学ぶ。課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房，2012</p> <p>参考書：中込四郎『メンタルトレーニング・ワークブック』道和書院，1997</p> <p>指定図書：中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房，2012</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。グループワークが中心となるので、他者の心を思いやり協調性をもった行動をとること。

※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	キッズスポーツ調査	キッズスポーツに参加し、調査を行う。	調査内容およびデータ入力方法を確認
4	輪読（1）	競技心理（1）「競技スポーツアスリートの心性」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成（1）
5	輪読（2）	競技心理（2）「ピークパフォーマンス」「スランプ・バーンアウト」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成（2）
6	輪読（3）	メンタルトレーニング（1）「アスリートに求められる心理的スキル」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成（3）
7	輪読（4）	メンタルトレーニング（2）「リラクゼーション技法」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成（4）
8	輪読（5）	スポーツの楽しさ（1）部活動・スポーツ教室	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成（5）
9	輪読（6）	スポーツの楽しさ（2）地域スポーツ	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成（6）
10	実験・調査計画（1）	競技心理・メンタルトレーニング・スポーツの楽しさに関する調査・実験を計画する	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験の計画書の作成(1)
11	実験・調査計画（2）	競技心理・メンタルトレーニング・スポーツの楽しさに関する調査・実験を計画する	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験の計画書の作成(2)
12	実験・調査	競技心理・メンタルトレーニング・スポーツの楽しさに関する調査・実験を実施する	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験の実施
13	実験・調査の分析	競技心理・メンタルトレーニング・スポーツの楽しさに関する調査・実験結果の分析	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験結果の分析
14	実験・調査レポートの作成	競技心理・メンタルトレーニング・スポーツの楽しさに関する調査・実験の考察、レポートの作成	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験のレポート作成
15	レポート発表	競技心理・メンタルトレーニング・スポーツの楽しさに関する調査・実験結果に関するレポートの発表・ディスカッション	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験のレポート修正

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
さまざまな地域課題についての課題と各地域の共通点について理解します。そのうえで市場や旅行業・観光業の成り立ちを学び、地域課題の解決につながる様々な事業展開の事例研究を通して、交流人口および定住人口拡大のための事業テーマ研究を行います。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行業及び観光業の成り立ちを理解する。</li> <li>・地域課題解決のための事例研究を通して、その背景と効果について考察することができる。</li> <li>・情報発信について商品流通やデジタルマーケティングなどの様々な手法について理解することができる。</li> </ul>				レポート作成	30%	
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				授業への積極的な姿勢	50%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。</li> <li>・課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。</li> </ul>				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極的な姿勢」(50%)は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。</p> <p>「レポート」(30%)は内容の論理性・独自性を重視して判断します。</p> <p>「プレゼンテーション」は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価します。</p> <p>フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。</p>							
授業の概要							
担当講師および外部講師の講義による旅行業・観光業の成り立ちと地域課題の事例の背景を理解し、グループ(または個人)で取り組むテーマについて具体的な企画フレームと実現可能なプランを作成します。また、事業案の発信のための旅行商品の流通やデジタルマーケティングについての実践的な知識の習得を目指します。最終的には事業化案としてレポート作成および発表を行います。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。							
教科書・参考書							
<p>教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。</p> <p>指定図書：「幸せの仕事術」小山薫堂(NHK出版)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略および目標設定	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる。
3	地域課題の 基礎知識習得①	地域課題について学ぶことの意義について (共通課題についての背景)	(復習) レポートをまとめる
4	地域課題の 基礎知識習得②	地域観光の課題について (マーケティング)	(予習) MICE、教育旅行について調べる。
5	地域課題の 基礎知識習得③	地域観光課題について (大村湾観光圏)	(予習) 「テーマのある旅」などの旅行パンフを探してくる。
6	地域課題の 基礎知識習得④	地域課題について (ダイバーシティ)	(予習) 自分の町の課題についてまとめてくる。
7	地域課題の 基礎知識習得⑤	実際の地域課題に対する解決事例を考える	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
8	地域課題の 基礎知識習得⑥	自治体やDMOの観光における役割について	(予習) 地元の自治体の観光HPを確認する。
9	レポートテーマ検討	これまでの予備学習についてのレポート発表とテーマ設定。	(予習) これまでの学習内容をレポートにまとめ、自分のテーマを設定。
10	テーマ別グループ編成	グループでテーマの絞り込みと研究課題について討議。各グループのテーマについて発表。	(予習) 調査対象の絞り込み。
11	グループワーク	企画テーマの内容や方向性を確認	(予習) テーマの論点を洗い出す。
12	グループワーク	企画案の内容確認・精査	(予習) 調査ポイントの確認
13	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションを作成	(予習) 調査分野での論点を確認。
14	レポート発表	グループ別プレゼンテーションと討議	(予習) 発表準備
15	まとめ	意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>テーマ：地域文化資源の調査と収集</p> <p>博物館及び地域文化資源に関するフィールドワークを行い、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「収集」「調査研究」機能について学び、実際の収集・記録活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。</p>							⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の収集・記録の方法を身に着けることができる。				授業・調査への参加度	30%	
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。				研究成果レポート	40%	
コミュニケーション力	フィールドワークおよびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。				グループワークへの取り組み	20%	
協働・課題解決力	地域文化資源について関心を抱き、調査・研究を行う中でゼミ生との協調性を養い、協働して課題解決に取り組むことができる。また、ゼミ生の研究発表を聞き、内容を理解することで多様性を理解すると共に、それを評価できる能力を養う。				プレゼンテーション研究発表	10%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は、フィールドワークへの参加を中心とし、それに至るまでのグループワーク、現地調査への取り組み・態度を総合的に判断する。</li> <li>・事後学習の一環として、フィールドワークで得られた研究成果をレポートにまとめ、その提出を必須とする。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>演習の方法は以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館における資料収集および記録の目的・意義を確認</li> <li>2. フィールドワークのテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク</li> <li>3. テーマに関する文献資料の収集と分析、および文献調査成果に関するプレゼンテーションの実施</li> <li>4. フィールドワークの実施（5月下旬～6月中旬に1日実施。踏査を基本とし、地域文化資源の搜索と収集、記録作業を行う。）</li> <li>5. 収集した地域文化資源の記録作成（調書・文化財マップ等）</li> <li>6. フィールドワークを基とした研究レポートの執筆および研究発表を行い、ゼミ内で相互評価を実施</li> </ol> <p>※旅費は実費負担とする。なおフィールドワークは、日帰りできる範囲で行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：使用しない</p> <p>参考書：授業中に指示する</p> <p>指定図書：青木豊編『人文系博物館資料論』雄山閣</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習は、博物館学芸員としての基礎である収集および調査能力を習得するものであり、フィールドワークを通じて実務能力だけでなく地域文化資源を判断する洞察力を養ってほしい。そのためには、普段から身の回りの自然や史跡等にも注意を払い、些細なことにも疑問をもってそれを解決する意識を涵養してほしい。</p> <p>※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。</p>							



回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。	予習：シラバスを読む 復習：フィールドワーク予定地の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	事前学習①	ゼミ内でグループワークを行い、フィールドワーク実施地を選定する。 併せて、フィールドワーク予定地に関する文献調査を行い、各組で調査内容を明確化する。 具体的には、歴史的環境・地理的環境などの各分野を割り振り、文献調査を基に後日発表する。	予習：フィールドワーク調査方法の考案、図書館の使い方を再確認 復習：必要に応じて文献調査を再度実施
4	事前学習②	文献調査の成果をまとめ、プレゼンテーション用の資料（パワーポイント、配布資料）を作成する。	予習：調査した文献の確認 復習：発表用資料（PPT）、配布資料の完成
5	事前学習③	文献調査の成果をゼミ内で共有するため、プレゼンテーションを実施。	予習：発表練習 復習：発表内容、発表方法の振り返り
6	フィールドワークの準備	地図を基に具体的な調査方法を検討し、同時に日程・持参物等について確認する。	予習：各人の発表内容の再確認 復習：準備事項の確認
7	フィールドワーク	5月下旬～6月中旬に、日帰り地域文化資源のフィールドワークを実施する。（学外授業、調査日は天候等によって変更となる可能性あり。）	予習：フィールドワーク予定地および調査方法の再確認 復習：調査成果の見直し
8	整理作業①	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
9	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を継続して行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
10	レポート作成①	フィールドワークを踏まえて研究レポートのテーマを決定し、レポートを作成する。	予習：レポートのテーマを考案 復習：レポート作成
11	レポート作成②	レポートを作成し、完成する。 発表の準備を行う。	予習：レポート作成 復習：発表の準備
12	研究発表①	一人15分程度の研究発表を行う。（質疑応答含む） 発表者以外は発表を評価し、発表者に質疑応答やコメントカードの形で伝達する。	【発表者】 予習：研究発表の練習 復習：レポートへの指摘事項の反映
13	研究発表②	発表後、指摘事項を踏まえレポートを修正し、ポートフォリオを通じて提出する。	【聞き手】 予習：発表評価方法の確認
14	レポートの添削指導	提出されたレポートについて面談・指導し、添削を基に修正する。	予習：レポートの振り返り 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出し、前期のまとめを行う。	予習：レポート提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認